

豊島区立 熊谷守一美術館だより

2018年 初夏号 vol.53 <http://kumagai-morikazu.jp>



熊谷守一美術館

33周年展



当館では5月11日(金)から6月24日(日)まで「熊谷守一美術展 33周年展」を開催します。1985年、私設で開館した年から数えて毎年開催される恒例の特別企画展です。

今年には岐阜県中津川市付知町の熊谷守一つげち記念館より、油絵「立秋の朝」(あぢさい)「朝の富士」など数点と墨絵をお借りします。また、新たに岐阜県美術館の所蔵となった「百日草」「野菜」「仏画下絵」3点も当館収蔵作品展に続いております。



第1、第2展示室は主に油絵(約50点)、3Fは第3展示室となり、墨絵と書を展示します。全館で100余点の熊谷守一作品をご覧いただける特別展です。皆さまお誘いあわせの上、お出掛けください。

■休館日 祝祭日問わず毎月曜日 ※展覧会前5月7日(月)から5月10日(木)までと、会期後6月25日(月)から6月28日(木)は、展示作業のため休館します。お間違えのないようお気を付け下さい。

■観覧料 一般/700円

高・大学生/300円、小・中学生/100円、小学生未満無料、障がい者手帳提示の方100円(介助者1名無料)、団体15名以上は要予約 豊島区在住・在勤の方は証明書の提示で650円



3Fギャラリー 小企画展 在りし日の熊谷守一

8月14日(火)から9月16日(日)まで、当館3Fギャラリーでは「在りし日の熊谷守一」として、晩年の熊谷守一の写真を中心に展示します。

熊谷守一がこの地に越してきたのは1932年、52歳の時です。長く借家暮らしを続けていた守一は、妻・秀子、長男・黄(9)、長女・萬(6)、二女・樫(3)と5人家族、この場所初めて、家・新築平屋庭付き一戸建て)を持ちます。熊谷守一は亡くなるまでの45年間をこの家で過ごしました。数多くの絵を描いたアトリエ、手を入れ続けて飽きることもなかった庭は、今はなく熊谷守一美術館となつていますが、写真で当時の熊谷家の暮らしに思いを馳せていただければと思います。

愛媛県美術館 開館20周年記念 熊谷守一 生きるよろこび

4月14日(土)から6月17日(日)まで「没後40年 熊谷守一 生きるよろこび」が、愛媛県美術館で開催されています。



先日まで東京国立近代美術館で開催された展覧会の巡回展です。油絵だけで160点以上の上の守一作品を一堂に観られます。東京国立近代美術館蔵の「鬼百合に揚羽蝶」、愛知県美術館蔵の「朝の日輪」「雨滴」、岐阜県美術館蔵の「ヤキバノカエリ」朝のはぢま

りもご覧になれます。展覧会の特設ホームページで最新情報をご確認ください。 ■089-9332-0010(愛媛県美術館) ■愛媛県松山市堀之内 料金/一般300円

モリの映画について

この春に、父・熊谷守一をモデルにした映画が公開されます。最初、映画会社からその話を聞いて、モリの最晩年、94歳の何も無い1日を映画にして何が楽しいのかしらうて。そんな面白くもおかしくもないからお薦めしませんと伝えました。それでも、映画会社の方々が大変熱心だったので、脚本を最後まで読ませてもらうことを条件に「わかりました」と。秋頃、脚本が届いて、事実と違ふところや、モリが絶対に言わないセリフなどあったので、それは何度もお手紙を出しました。

昨夏、撮影の前に監督がいらして、出来れば大きな修正をしないまま作らせて欲しい、映画はドキュメンタリーではなくフィクションだといつことを理解して欲しい、という丁寧な説明を受けまして(笑)。結局は、「こちらがどうしても」というところ以外は、沖田監督が書かれた最初の脚本に近い感じで撮られたと思います。モリのことを好きだという山崎努さんは、もともとの顔が似ているわけじゃないのに、顔の感じや着ているものも良く似せていました。わたしはドラマや映画を全然見ないので、時々テレビで樹木希林さんをお見かけして素敵な方だなと思つていたの。母は希林さんみたいに聡明でなくて、女学生のまま婆さんになつたような人だったから…希林さんの方が素敵でした。アトリエなど、よく再現されていたと思います。庭と家の中は、あんなに広くないです。

モリは人が好きだったんだけど、家に男の人をあげるのを嫌いました。どんなに仲が良くても、信時潔さんですら家に泊めたことがないんです。だから映画にあつたように、知らない男が大勢うちの居間で夕飯をするつことはまず考えられません。家の敷地から一歩も出られなくなつたのは最後の数年ですし、母方の姪の恵美ちゃんも、映画とちがつて本当はとてもおとなしい性格だったんですよ。

あくまで映画は映画。心配なのは、エピソードや会話すべて事実と忠実だと誤解されな

金曜デッサン会

金曜デッサン会は、企画展開催の為、7月6日までお休みとします。再開は7月13日からです。よろしくお願ひします。

本紙掲載作品

題字横「蝶」1957年頃(熊谷守一つげち記念館蔵)、一段目「野菜」1949年(岐阜県美術館蔵)、「あぢさい」1970年(熊谷守一つげち記念館蔵)、「百日草」1962年(岐阜県美術館蔵)、「立秋の朝」1959年(熊谷守一つげち記念館蔵)、「二段目「朝の日輪」1955年(愛媛県美術館 木村定三コレクション)

豊島区立 熊谷守一美術館だより 2018年 初夏号 第53号

- 休館日/祝祭日問わず毎月曜日(年末年始休館)
- 開館時間/午前10時半から午後5時半まで(常設展示室のみ金曜日は午後2時まで)
- 住所/東京都豊島区千早2-27-6
- 電話/03-3995-7379
- 常設観覧料/一般500円、高・大学生300円、小・中学生100円、小学生未満無料
- 障がい者手帳提示の方は100円(介助の方1名無料)※特別企画展は料金異なります。
- タクシー/池袋駅西口より約900円(5分)
- バス/池袋駅西口バスターミナル芸術劇場前)から「日大病院行」に乗車または西口バスターミナル前から「要町循環」に乗車(要小中学校)で下車徒歩5分/右に進み要小中学校正門を越えた角を左折/案内に従つてお越しください。
- 地下鉄/東京メトロ有楽町線・副都心線の要町駅出口2番から徒歩10分程/「要小中学校」正門を目指し大通りを直進/「要小中学校」正門を角を学校の柵に沿って左折/30歩ほど歩くと左に入る道があるので再度学校の柵沿いに左折/すぐ目の前にはあらわれないお越しください。
- 発行/株式会社権指定管理者 代表 熊谷権一
- 第1版/2018年6月5日発行(2000枚)